



教授の呟き

第52回

ロジスティクス受難の時代か？

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

期待が膨らむ4月

新しい年度になって、会社では新たな想いと期待をもって新入社員を迎えていることだろう。大学でも初々しい新入生を迎えている。今年はどんな学生が集まっているのだろうか、期待が膨らむ4月である。

筆者が属している学部は工学系であるが、全国的に工学部の人気は低迷しており、過去10年で入学志願者はほぼ半減している。そんななかで筆者の学科は、なんとか多くの志願者を確保できた。せっかくロジスティクス専門の学科を選んできたのだから、感謝しつつ一緒に楽しく4年間を過ごしたい。

工学部受難の時代

「技術立国のはずなのに、なぜ工学部は受験生に人気がないのですか？」と、あるメーカーの方に聞かれたので、次のように事情を説明した。

大学受験では、文系よりも多くの科目を勉強しなければならない。授業料は、工学系の方が高いことがある。入学すれば、実験演習を含めて授業が多いためにアルバイトも思うようにできず、親にも負担をかける。ゆとり教育の影響か、授業に追いつくための補習までである。

工学系では大学院進学が普通になりつつあるが、就職しても修士課程で学んだ分が給与に反映されることはわずかである。以前あった文系と

の給料差はすでに無く、将来に期待して先輩を見ても、会社の役員には法学や経済学系出身者が多い。しかもメーカーに比較して、技術者に縁遠い業界の方が給与は高い。

「『こんなことなら文系の方が良い』と思うことは、ごく自然ではないでしょうか。もちろん大学にも問題はありますが、企業の問題も大きいと思います」と答えた。

「我が国では、技術者の扱いが冷淡」と言ったら、言い過ぎだろうか。

ロジスティクスには3つの受難

ロジスティクスも、実は受難の時代かもしれない。

第1は、「ネーミングによる受難」である。最近、ロジスティクスという言葉の響きと新鮮さによるのだろうが、社名を「〇〇ロジスティクス」とする会社も多くなった。もちろん、生産・流通・販売をつなぐ本来の意味でのロジスティクスの会社も多いが、一方で市民や消費者には運送会社にはしか見えないこともあるだろう。ロジスティクスという用語の普及は嬉しいが、用語の意味やイメージが混乱したら困りはしないだろうか。

第2は、「解釈による受難」である。現在ロジスティクスの授業科目があるのは、経営学・商学系と、工学系（都市工学、交通工学、経営工学など）である。しかし前者はロジスティクスをマーケティングの一部と考え、後者ではロジスティクスを交通の一部と考える人たちが多い。

工学部の受難

- 入試での受難 入試科目が多い。
- 大学での受難 授業数が多く、アルバイトがしにくく、親にも負担をかける。
- 就職での受難 文系との給料差は無い。大学院を修了しても給与面では得が少ない。
- 企業での受難 役員は、法学経済系出身者が多い。技術者の給与は、比較的低い。

ロジスティクスの受難

- ネーミングによる受難 さまざまな業種業態で「ロジスティクス」を社名に使っている。
- 解釈による受難 マーケティングや交通の一部という解釈がある。
- 認識不足による受難 重要性が認識されず、教育研究機関も少ない。

しかしロジスティクスは、マーケティングだけでは成立しないし、輸送だけでも成立しない。また経営工学のように数的処理だけでも解決できなければ、インフラ整備や制度づくりなどの公的部門だけでも難しい。文系と理系の成果を取り入れながら、ロジスティクスの体系を作ろうとする視点が欠けているのではないだろうか。

このことが、次の受難も生んでいる。

第3は、「認識不足による受難」である。ある先生の調べによれば、アメリカは188大学、ドイツは45大学が、ロジスティクスの学科を持っているそうである。中国や韓国の大学も、社会ニーズもあわせてロジスティクスの学科を増やしている。一方の我が国は、わずか数大学とのこと。

企業のロジスティクス担当者には、経済学・経営学・商学系出身の方が多そうだ。もしも彼らが「ロジス

ティクスには、自分のような出身学科で十分。入社してからで間に合う」と考えているとすれば、ロジスティクスの総合的な基礎知識の必要性を感じるはずはない。企業にニーズがなければ、大学がロジスティクス専門の学科を作ることもない。

しかし、どんなスポーツでも基礎体力がなければ高度な技術を発揮できないように、学問としてのロジスティクスの基礎がなければ、複雑で高度な問題の解答は見いだせないだろう。

●●● 受難の時代を超えるために

もしも本当にロジスティクスが受難の時代(?)だとすれば、大学だけの力では抗しようもない。受難を超えるためには、企業・協会・団体・行政などの方たちと、一緒に対策を考える必要がある。

危機感を共有する方々から、アドバイスをいただければ幸いである。



Profile

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勁草書房) <http://www.e.kaiyodai.ac.jp/kuse/>

